



## 生徒が伝える蓼高の伝統 ～生徒会主催「新入生オリエンテーション」～

4月9日(金)は、生徒会主催の対面式とオリエンテーションがありました。新型コロナウイルス感染症対応により、オリエンテーションの入場は1, 2年生のみで、生徒会執行部と各部活動の関係者が交代で発表する形式でした。執行部の綿密な計画と実行力のおかげで行事は無事進行でき、1年生の部活加入も例年よりも積極的で、蓼高のよき伝統が生徒自身の手で後輩に伝わる機会になりました。

立岩生徒会長談：『執行部が団結してくれたお陰で、大成功でした。みんなの協力がうれしかった。』



## 「蓼科学」スタート！ ～蓼科学オリエンテーションにける私の思い～



4月13日(火)、いよいよ2年地域コースにて学校設定科目「蓼科学」が始まりました。この科目は、立科町と東信地域について体験を通して学び、私たちの身の回りの地域社会について、愛郷心を涵養するとともに、地域を支える明日の社会人として、「地域Ⅰ・Ⅱ」とともに探究をする力を育てる地域連携授業です。

今年度は、なぜ地域について学ぶのかという意義と、立科町の概要について、プロジェクターを用いて授業を行いました。授業の方法は、生徒の身の回りのことで興味関心のあることをクイズ形式で問うて

みたり、なぜこうなるのかという問いを生徒にぶつけて意見を聞く双方向のやり取りを意識して展開しました。内容は立科町の自然環境、立地条件、産業などを系統づけて説明し、その中から観光業、第6次産業と、この町が将来発展をするための要素を結論的に織り込み、年間の授業と「地域Ⅰ・Ⅱ」への橋渡しを意識して組み立てました。

幸い生徒は目を輝かせて聴き発言し、アンケートでは全員から良い評価をもらいました。過大評価だと思いますが、大いに励まされました。



## 困ったお話(その33) (200円で見た夢と現実)

今年は全国的に実施が危ういが、春祭りの季節だ。小学生の頃「お祭り小僧」だった私は、当日朝自転車飛び出した。行先は伊那福岡にある馬見塚(まみづか)公園の「コダマサマ」のお祭りだ。大人が言う「コダマサマ」が何のことか当時の私には見当がつかなかったが、露店で買い物するほかは子どもにとってはどうでもいいことだ。「貯めた200円で何を買おうかな？」 当時はアイス1本20円、ベビースターラーメン10円だった。私にとって何を買えばよいか困るほどの大金で、道すがら心がおどった。

馬見塚公園に到着し露店を回り始めると、ある店の前でくじ付けになった。クジをやっている。くるまれた薄紙を破り、中にある1センチ四方の厚紙に書いてある数字で景品をゲットするクジだ。1回10円とは安いし、金魚すくいみたいにテクニックはいらない。すると店のおじさんは言った。

『クジを当ててハワイへ行こう！』

えっ?! その言葉にパーっとなって、突然知りもしないハワイへの妄想が膨らんだ。時々おじさんは他の子供に、『このくじ引いてごらん』と手ほどきをする。すると不思議にそのくじは当たりだった。

『なんてすごい力を持った親切なおじさんだろう。』 ますますやる気に火がついた。

2時間後。私の手には、はずれのゼリー入りストロー20本が残った。吸いながら帰った。

母に話したら、『和人はバカだに』と言われた。 おじさん、夢と現実をありがとう!

